



平安だより 2021年12月号 平安幼稚園

「恵みに感謝し、祝う」牧師・園長 江間紗綾香

『神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。』 (ヨハネによる福音書三章一六節)

十一月二十八日からイエス様のお誕生を待ち望む待降節(アドヴェント)という期間になります。キリスト教では、クリスマス当日だけをお祝いするのではなく、救い主を待ち望んでいたユダヤの人々と同じように準備をしながらその時を待ちます。幼稚園でもクリスマス祝会に向け、それぞれの学年で準備に入りました。年少さんはレコード劇、年中さんは合奏と合唱、年長さんは降誕劇(ページェント)になります。特にイエス様の誕生の次第を描く降誕劇は、見る方も演じる方も当身を体験することができ、とても意義深いものと言えます。何より、降誕劇に登場する人物は、どれも欠くことのできない重要な意味を持っているのです。

まず、イエス様の誕生の知らせを聞き、お祝いにやって来た羊飼いだ。彼らは当時、最も貧しい人の一人で、孤独な存在でした。その彼らに喜びの知らせが最初に届いたのは、イエス様が身分の高い人のためではなく、小さな存在の人々のためにお生まれになったことを表しています。羊飼いだは、この時、世界中で最も祝福された者となりました。また、三人の博士達は東方からやって来たユダヤ人ではない人々でした。その彼らは星を頼りに救い主を拝みにやって来ます。それはイエス様が世界中すべての人の救い主であることを表

しています。何より、彼らが献げた黄金、乳香、没薬は救い主イエス様にふさわしい贈り物となりました。博士達を導く星も重要であることは言うまでもありません。

聖書には書かれていませんが、ローマ兵も宿屋も意味があります。ローマ皇帝の命令を告げるローマ兵。彼らが命令を伝えることでイエス様はベツレヘムでお生まれになります。何人もの宿屋が断る中、最後の宿屋が馬小屋へと案内することになり、イエス様は最も低い場所である馬小屋で生まれることになりました。ベツレヘムも馬小屋もすべて聖書の預言に記されていることです。そのことが実現するためにローマ兵も宿屋も欠かせないのです。

そしてイエス様の誕生をマリアと羊飼いに知らせる天使。天使は神様からの使いであり、神様の救いのご計画を人々に告げる大切な役目を負って登場します。本来なら人に明かさされることのない神様の御心(ご計画)が天使によって示され、人々は救いの希望にあずかることができるようになります。最後にマリアとヨセフですが、彼らはとても信仰深い人たちでした。二人はそれぞれ、これから起こることに戸惑いますが、神様のご計画を信じて受け入れます。信じ続けることの大切さ、神様に頼ることの幸いを二人によって示しています。たとえどんな困難に遭っても、信仰によって確かな道へと導かれていく確信を私達は得ることができました。

降誕劇だけではなく、クリスマスまでのすべての時の主役はイエス様であり、神様です。私達が神様の愛の中で生かされ、家族や友達と共に過ごせる幸いを得ることができたのは、イエス様がこの世の光として来てくださった、救いの道を示してください。おかげです。この大きな恵みをいただいた私達は礼拝や降誕劇を通して神様に感謝を表わすだけなのです。感謝と喜びに満ちたクリスマスとなるよう、子供達と共に準備をしていきたいと思っています。